



～発音の基礎づくり 生活や遊びの中で～

「おしゃべりがずいぶん増えてきたけど、発音がはっきりしない」というご相談を受けます。同じ年齢でも発音がかわいらしい感じのお子さんと、はっきりしたお子さんがいるように、発音の育ちには個人差があります。また、すべての日本語の音を正確に発音できるようになるには、5～6歳から小学校入学前後くらいまでかかります。成長するにしたがってだんだんとはっきりしてくることが多いのですが、今回は遊びや生活の中で取り組める発音の基礎づくりについてご紹介します。

★遊び場面で～吹くあそび（笛・らっぱ・シャボン玉・かざぐるま）や、にらめっこ（ほっぺをふくらませる）・顔じゃんけんなど。

マスク生活で口呼吸になりがちな場合や、いつも口が開いているお子さんの場合、「くちびるの周りに力を入れてとがらせる」「上と下のくちびるをぴったんこさせる」口の動きを、このような遊びの中で経験していきましょう。

★食事場面で～汁もの・うどんなどフーフーする（口の周りに力を入れる）、口の周りについたソースやヨーグルトを舌でなめとる（舌先をつかう）、口を閉じてしっかりカミカミ・ゴックンする（舌全体をつかう）

★生活習慣で～歯みがきやうがい（口の中の感覚を高める）

お子さんへの接し方としては、①やりとりを楽しむことを第一に、話しの「内容」に耳を傾けて②発音について指摘したり、正しく言い直しをさせたりすることはしない③大人が正しい発音でそれとなく繰り返してフィードバックすることを心がけてみましょう。4歳半～5歳ぐらいになって発音について気になる場合は、ことばの相談をご利用ください。